

# 5年1組 算数科学習指導案

日 時：令和元年11月14日 第5校時  
場 所  
授業者

## 1 単元名

割合(全10時間)

## 2 指導の立場

### (1) 教材観

本単元では、割合、もとにする量、比べる量の関係を理解させるとともに、それらを求めることを扱う。

児童は、「5 少数のわり算」で、基準にする大きさを1として、それに対する割合を小数で表す経験をしてきている。また、一方を1とみたときの他方の大きさ比べは、いままでにくりかえし学習してきている。しかし、割合は、「もとにする量」、「比べる量」にあたるものがどれか混乱するなど、苦手と感じる児童が多くいることが予想される。具体的な場面を通して、基準量と比較量の関係を具体的にとらえさせてから公式に一般化したり、数直線図を用いて、もとにする量と比べる量がどの量であるかを確実にとらえさせたりして指導していきたい。

### (2) 児童観

本学級のどんどんコースは、男子14名女子12名の計26名である。

割合のレディネステストでは、教科書の既習問題に取り組んだのだが、多くの児童が問題場面もイメージできず、問題場面の数量関係を数直線図に表すことも難しかった。そこで、もう一度復習してから、数字と名前を変えて再度レディネステストを行った。「赤いテープの長さは2.5mで、緑のテープの長さは赤のテープの長さの2.4倍です。緑のテープの長さは何mでしょう。」という問題は初めは19%、再テストでは100%が正解していた。また、「あい

子さんのお姉さんの身長は159cmで、なお子さんの身長は1.5倍です。なお子さんの身長を求めましょう。」という問題では、問題場面の数量関係を数直線図に表せた児童が初めは27%で再テストが96%、身長を求めるために立式できた児童が初めは38%で再テストでは96%、身長を正しく求めることができた児童が初めは15%で再テストでは84%であった。

また、問題解決ができた場合でも、説明やそう考える理由を話すことについては、苦手としている児童が多い。グループ交流「ちえのわタイム」を位置づけ、考えを話したり、考えに反応したり、質問したりできるようにしていきたい。

### (3) 指導観

本時のねらいは、「比べる量は、『もとにする量×割合』で求められることを理解する。」である。

まず、もとにする量は飲み物700mLであることを確認させる。次に百分率で表されている割合を小数で表す必要がある。さらに、問題の場面の数量関係を数直線図で確認する。

そして、比べる量を求めることを十分に意識させて、式を導くようにする。この式は、割合を求める式から変形して求めることもできるが、具体的な場面で数直線図から数量関係をとらえさせ、式を求められるようにしていきたい。

また、どんどんコースでも、学習に支援が必要な児童が複数いるので既習内容は掲示し確認できるようにしておきたい。

### 3 研究内容に関わって

#### 〈多治見市研究テーマ〉

#### 見方・考え方を働かせ数学的に考える 児童を育てる指導の在り方

#### 重点1 単位時間あたりにおける数学的な 見方・考え方と数学的に考える児童 を育てる数学的活動の明確化

#### 重点2 数学的に考える児童を見届ける 視点を明らかにした指導改善

#### 重点1 単位時間あたりにおける数学的な 見方・考え方と数学的に考える児童 を育てる数学的活動の明確化

##### ○単位時間あたりにおける数学的な見方・ 考え方の明確化

問題場面から数量関係を読み取り、数直線図を用いて数量関係を十分にとらえ、図や式、言葉などを使って解決し、算数のよさに気付くことで数学的な見方や考え方ができると考える。

##### ○数学的に考える児童を育てる数学的活動 の明確化

「数直線図を根拠に、比べる量の求め方を話し合う活動」(ちえのわタイム)を位置づけ、それぞれの考えを図や式、言葉などを使って伝え合い、多様な見方や考え方を共有し算数のよさに気付く活動にしたい。話すことが苦手な児童は多いが、3・4人のグループを作り、仲間の考えを聞いて少しでも算数用語を使って説明をしたり、根拠を明確にして話したりすることができるようにしていきたい。

#### 重点2 数学的に考える児童を見届ける視

#### 点を明らかにした指導改善

「実態を見届ける」「学習状況を見届ける」「定着状況を見届ける」の3つの見届けるを大切にしていく。「実態を見届ける」場面では、前もって児童の実態を見届け、ノートに貼れる大きさの数直線図や、必要な児童にヒントカードを渡し、援助していく。「学習状況を見届ける」場面では、自力解決で自分の考えがもてない児童がちえのわタイムで仲間の考えを聞いて、考えを持てるよう声をかける。「定着状況を見届ける」では、練習問題で問題場面から数直線図を使い数量関係を十分に読み取れているかを見届ける。